

inet

第43期

第2四半期株主通信

[2013年4月1日~2013年9月30日]

IR REPORT

株式会社 アイネット と株主様を結ぶコミュニケーション誌



[目 次]

ごあいさつ …	1
第43期 第2四半期のご報告 …	2
トップからのメッセージ …	3
アイネットQ&A …	5
連結財務諸表の概要 …	7
トピックス …	9
会社の概況 …	10
社会貢献活動／アンケート結果のご報告 …	10
株式の状況／株式メモ …	11
配当金／株主優待制度のご案内 …	11

代表取締役会長
池田 典義

代表取締役社長
梶本 繁昌



平素は格別のご高配を賜り
厚く御礼申し上げます。

ここに、第43期 第2四半期株主通信をお届けするにあたり
謹んでごあいさつ申し上げます。

サービス区別売上高



当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府による金融緩和をはじめとする経済対策を背景に、円安の進行や株価の上昇がありました。その結果、企業収益や個人消費に改善の動きが見られるなど、着実に持ち直してまいりました。

当社グループが属する情報サービス業界では、企業収益の改善に伴って、緩やかにIT投資回復への動きが見られました。その中でも、ユーザー企業のITリソースに対するコスト意識の高まり、柔軟で迅速なシステム導入ニーズやスマートデバイスの業務利用などにより、データセンターやクラウドサービスの利用が拡大しております。

この様な環境下、当社グループは継続して既存顧客との関係強化や新規顧客の開拓を図り、顧客のIT投資に対する需要を積極的に取り込みました。また、4棟目となるデータセンターを建設するなど基盤整備を進め、更にインフラを中心としたクラウドサ

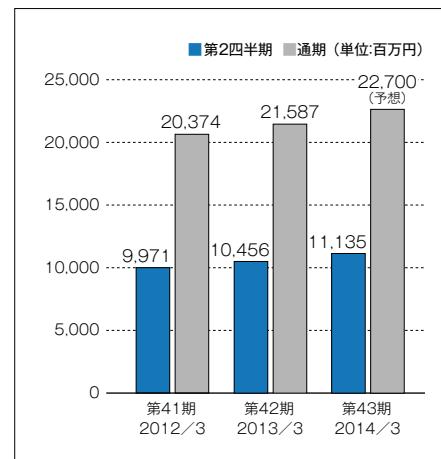
ービスに共通アプリケーションを加えた新クラウドサービス「Dream Cloud®」を開発し、サービス領域を拡大して顧客ニーズに対応しました。

以上の結果、売上高は、情報処理サービス並びにシステム開発サービスの売上が増加したことにより11,135百万円（前期比6.5%増）となりました。利益面も、営業利益で836百万円（同25.0%増）、経常利益は753百万円（同23.6%増）、四半期純利益は456百万円（同6.8%増）となりました。

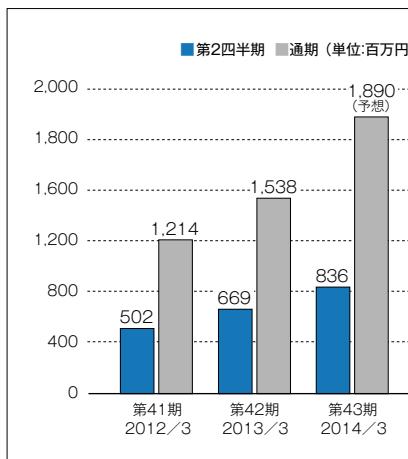
配当につきましては、継続的な安定配当を基本方針としております。この方針に則り、当期の年間配当金は1株あたり25円を計画しており、中間配当金は12円50銭とさせていただきます。

株主の皆様におきましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

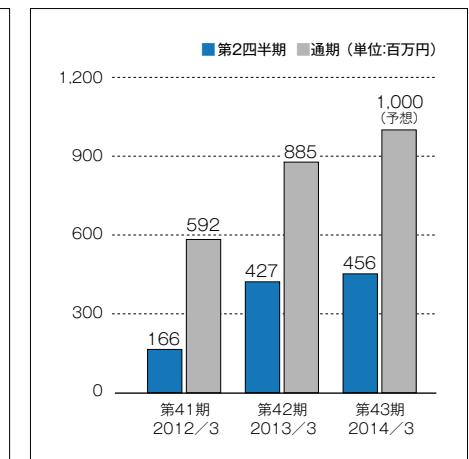
売上高
11,135百万円（前期比 6.5%増）



営業利益
836百万円（前期比 25.0%増）



四半期(当期)純利益
456百万円（前期比 6.8%増）



データセンターなどの売上が順調に拡大し、中間期最高益を更新。

中間期 最高益更新

当第2四半期は、既にご案内の通り増収増益となり過去最高益を更新することができました。この結果は、偏に社員全員の頑張り^{ひとえ}と株主の皆様の温かいご支援の賜物であると感じております。この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、この好調の主な要因としては、ここ数年来、当社グループが注力してきた「データセンタービジネス」や「クラウドサービス」が順調に伸びたこと、並びに「システム開発サービス」が順調であったことが挙げられます。

これらの受注を分析してみると、お客様1社に対し、当社の様々な部署の様々なサービスをご利用いただいている（クロスセル）という結果が出始めております。これは正に当社グループの強みである「ワンストップサービス」^{*1}がお客様に評価された結果であると思えます。

※1 ワンストップサービス… P.5の「アイネットQ&A」のQ1をご覧ください。

私が社長就任以来、継続して言い続けてきた**3つの事業方針**^{*2}（エンドユーザー志向、ストックビジネスの拡大、変化と進化）が結実してきた手応えを感じております。

これからもこの事業方針を一層浸透させ実行していくことにより更なる成長を目指してまいります。

今後の更なる成長に向けて

先程申し上げたとおり、当社の強みは「ワンストップサービス」です。これはお客様のシステムに関わる周辺業務を全て当社がサポートし、お客様は本業に集中していただくというものです。

この「ワンストップサービス」は様々なサービスで構成されていますが、これらは**ストックビジネス**^{*3}と**フロービジネス**^{*4}に分類できます。

当社グループの経営にあたっては、これらストックとフローのバランスを取りながらシナジー（相乗効果）を高めることで、ストックビジネスへの先行投資を行いつつも、キャッシュフローを維持し、社員一人あたりの営業利益を高めることを念頭において事業を推進しております。

さて、当社グループが属する情報サービス産業の事業環境は、企業のIT利活用の意識が所有から利用へと変化し、その流れの中でクラウドサービスの利用が急激に拡大してきております。スマートフォ

※2 3つの事業方針… P.5の「アイネットQ&A」のQ2をご覧ください。

※3 ストックビジネス… 継続して売上計上できる継続契約型ビジネスです。新規契約を獲得すればするだけ売上と収益が蓄積されます。当社グループでは情報処理サービスが該当します。

※4 フロービジネス… 都度契約し納めて完結するビジネスです。当社グループではシステム開発サービスとシステム機器販売が該当します。

ンやタブレット端末などはクラウドサービスを利用することが前提となっており、これらは今後益々拡大発展してまいります。

一方、日本経済においては政府の金融緩和、景気刺激策や2020年の東京オリンピックへの期待感などから企業の投資マインドや個人消費マインドが改善し日本経済は長年のデフレを脱却しつつあります。これらを背景としてIT投資も拡大基調で推移すると見込んでおります。

こうした背景の中、当社グループは更なる成長に向け、次の取り組みを実施してまいります。

(1) 今後更に拡大するクラウドサービスの基盤となる、データセンターの設備及び拡充を進めております。10月に竣工した第2データセンターⅡ期棟もこの一環です。これは今後、更なる成長のために不可欠な先行投資であり、その資金調達については財務面を考慮し、金融機関からの借入に加え自己株式の売り出しも行いました。

(2) データセンターの基盤を有効活用し、ROA（総資産利益率）を高めるためには単位面積当たりの売上・利益を最大化する必要があります。そのためクラウドサービスに注力してまいります。

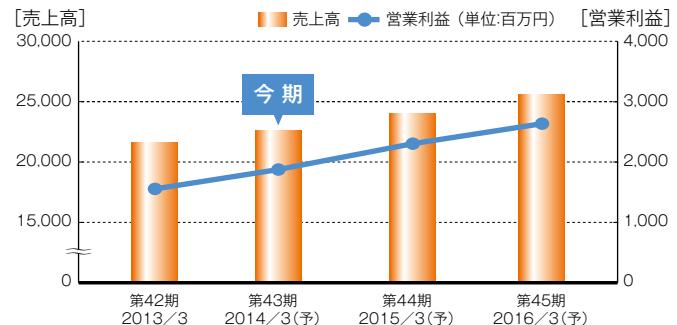
サーバをお預かりし監視するだけのコロケーション（いわゆる場所貸し）ではラック数×単価で売上高が決まり、いずれ限界が訪れます。このサービスだけで更に伸ばそうとすれば次々とデータセンターを作り続けなければなりません。一方、クラウドサービスは当社のサーバ上にソフトウェアを配置し、お客様にご利用いただくサービスですので、ラック数にあまり依存せず、当社の「Dream Cloud®」のにより良いサービスを提供していけば無限とも言える成長機会が広がります。

(3) 各事業シナジーを高めるために「ワンストップサービス」を更に推進してまいります。現在、当社グループはデータセンターを基

盤としたクラウドサービスに資金投下し注力しております。他のデータセンター専門事業者はコロケーションビジネス主体ですが、当社には長年の実績とノウハウを保有するシステム開発部隊がおります。システム開発分野単独での売上拡大は勿論のこと、これらのお客様に対し、データセンターや各種クラウドサービスをご提案することで、お客様に多面的なサービスをご利用していただくことが可能です。お客様と多面的にお付き合いすることで、より詳しい課題を掘り起こし、更にそれを解決するシステムを構築することで、一層信頼関係を深めていく。この様なシナジーを図ってまいります。

以上の取り組みを推進することにより2年後の2016年3月期(45期)には売上高255億円、営業利益26億円、経常利益24億円、当期純利益15億円を目指しております。その初年度である2014年3月期(今期)は売上高227億円、営業利益18.9億円、経常利益17.3億円、当期純利益10億円を計画しており、営業利益、経常利益ともに過去最高益を更新する予定です。

中期収益イメージ



最後になりましたが、引き続き、安定した高収益企業を目指しグループ丸となって尽力してまいります。株主の皆様には変わらぬご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

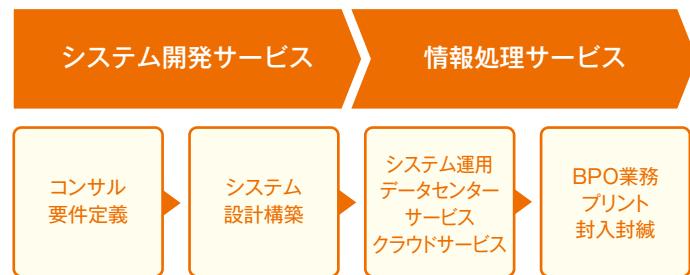


これまで株主様向けアンケートはがきや個人投資家向け説明会でよくお問い合わせいただいたご質問に対してご説明させていただきます。

Q1 アイネットの強みを教えてください？

当社グループの強みは、右図の様に、システムの設計構築から運用、業務利用面まで全般にわたりワンストップでサポートできることです。高セキュリティのデータセンター上で各種サービスを提供しております。お客様は、開発、運用、業務などを別々の会社に発注した場合と比べ、引継ぎコストや手間が省け、窓口も一本化できます。一例としては、銀行のローンシステムの業務受託があり、システム構築、サーバ運用監視、日々出力される契約書等の発送、磁気カードの作成・発送までを一貫して提供しています。

「ワンストップサービス」



Q2 アイネットの3つの事業方針とその狙いを教えてください？

エンドユーザー志向

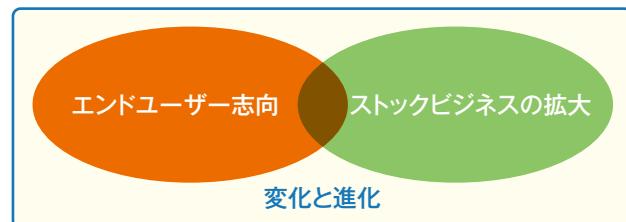
エンドユーザーとの直接契約を推進しています。直接お客様に接することで、課題を把握し解決策を提案することができます。更にお客様との信頼関係を構築することで、様々なサービスを提供することが可能となり多面的な販売に繋がります。また、お客様のビジネスに直接携わることで、社員のモチベーション(意識・やりがい)も上がりノウハウも向上し、成長することができます。

変化と進化

エンドユーザー志向やストックビジネスの拡大を推進するためには、社員一人ひとりが変化し、ノウハウを蓄積して、次に生かしていくことが必要です。そのプロセスにおいて、社員一人ひとりが成長・進化し、会社が発展・成長していくのです。自ら進化することができる社員を増やし、彼らが活躍できる場を多く提供していきます。

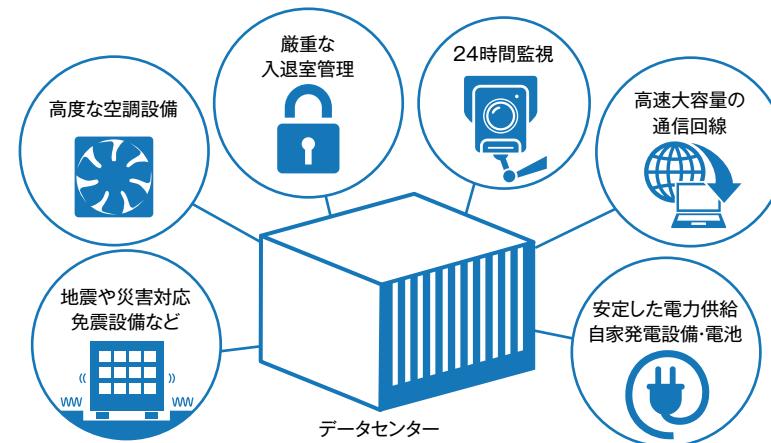
ストックビジネスの拡大

ストックビジネスの拡大を積極的に図っています。このビジネスは、いわゆる継続契約型ビジネスであり、毎月継続して売上計上できます。したがって、新規契約を獲得すればするだけ売上と収益が蓄積され、経営基盤の安定に繋がります。また、一般的に先行投資が必要となりますが、予めシステム化対応をしておくことで受注件数が増加してもあまり人数に依存しないため、一人当たりの売上・利益が増え、安定的な成長が見込めます。



Q3 データセンターとはどんな建物ですか？

データセンターはデータやソフトウェアを格納した高性能なコンピュータであるサーバを格納する施設(建物)です。



左図の様に、地震の揺れを吸収する免震設備、サーバを冷却する高度な空調設備、大切なデータを消失させないための非常用自家発電設備や電池、高速大容量の通信回線、厳重な入退室管理や監視カメラなどのセキュリティ、などが備えられています。

近年、企業の災害時におけるBCP(事業継続計画)対応や、スマートフォンやタブレットなどのスマートデバイスの急速な普及に伴って、サーバやデータを保管するために需要が拡大しています。なお、国内データセンターサービス市場は2012年の9,148億円から2017年の1兆2,831億円へ拡大すると予測しています(当社調べ)。

ピックアップ

第2データセンターⅡ期棟竣工 (2013年10月)

当社グループで4棟目となる国内最高水準の安全性と最新のテクノロジーを備えた次世代型データセンターが、既に稼働中のI期棟と同じ敷地内に竣工しました。当社が提供するクラウドサービスの拠点として活用していきます。

第2データセンター▶



[損益の概要]

	前 第2四半期累計期間 (2012年4月1日から2012年9月30日まで)	当 第2四半期累計期間 (2013年4月1日から2013年9月30日まで)	増減率 (%)
売上高	10,456	11,135 ポイント 1	6.5
売上総利益	2,542	2,739	7.7
営業利益	669	836 ポイント 2	25.0
経常利益	609	753	23.6
四半期純利益	427	456	6.8

[資産・負債の概要]

	前期末 (2013年3月31日現在)	当 第2四半期末 (2013年9月30日現在)	増減額
流動資産	7,566	7,572	5
固定資産	14,892	15,939 ポイント 3	1,046
流動負債・固定負債	13,604	13,238	△ 366
純資産	8,854	10,273 ポイント 4	1,418
総資産	22,459	23,511	1,052

[キャッシュ・フローの概要]

	前 第2四半期累計期間 (2012年4月1日から2012年9月30日まで)	当 第2四半期累計期間 (2013年4月1日から2013年9月30日まで)	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	517	234	△ 282
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 414	△ 1,831 ポイント 5	△ 1,416
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 99	1,607	1,706
現金及び現金同等物の期首残高	2,556	2,474	△ 81
現金及び現金同等物の期末残高	2,559	2,485	△ 73

株主の皆様に必要なIR情報を公開しております。
財務諸表の詳細はこちらでご確認ください。

<http://www.inet.co.jp/ir/index.html>

アイネット IR

[決算数値のポイント]

ポイント 1 データセンターを活用したITマネージドサービスやクラウドサービスが順調に拡大したこと、システム開発が金融業を中心に増加した結果、売上高は前年比6.5%増の11,135百万円となりました。

ポイント 2 売上高が増加したことに加え、システム開発のマネジメント強化により採算性が向上した結果、営業利益は前年比25.0%増の836百万円となり、最高益を更新しました。

ポイント 3 第2データセンターの増設や情報処理用ソフトウェアの投資により、固定資産が1,046百万円増加しました。

ポイント 4 自己株式の売り出し等により純資産が1,418百万円増加しました。

ポイント 5 (営業活動によるキャッシュ・フロー) 利益及び減価償却などの内部留保金が1,400百万円ありましたが、一方で、法人税の支払い、決済ビジネスの拡大に向け一部支払サイトを短縮したことにより234百万円の収入となりました。

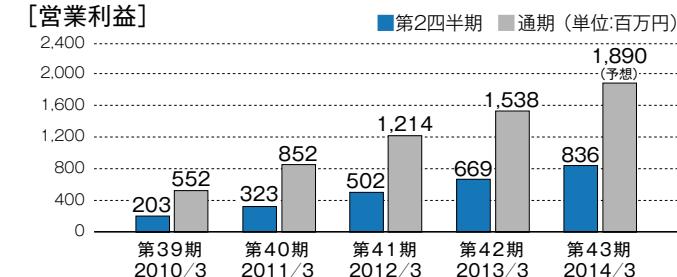
(投資活動によるキャッシュ・フロー) 第2データセンターの増設や情報処理用ソフトウェア等の資産を取得したため1,831百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー) 第2データセンター増設のために、自己株式の売り出しと借入金により資金調達を行った結果、1,607百万円の収入となりました。

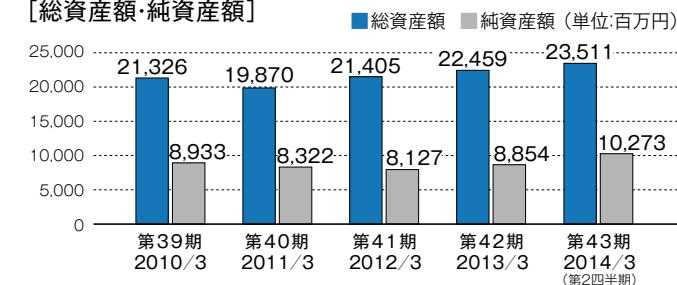
[売上高]



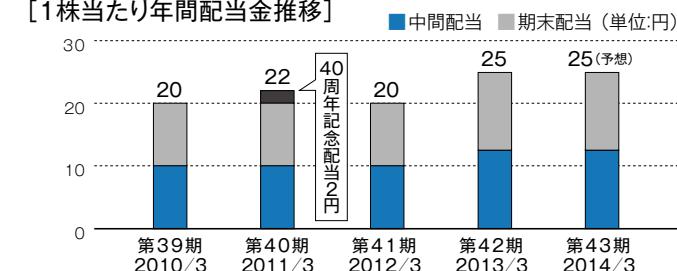
[営業利益]



[総資産額・純資産額]



[1株当たり年間配当金推移]



主な活動をご報告いたします。

[2013年5月]
**第4回クラウドコンピューティングEXPO春(クラウドジャパン)出展
 新クラウドサービスを数多く展示**

5月8日～10日の3日間、東京ビックサイトで開催された『第4回クラウドコンピューティングEXPO春』に出展いたしました。昨年を上回るお客様にご来場いただき、新クラウドサービスの実演をはじめ、大変熱心に耳を傾けていただきました。



[2013年5月]
機関投資家向け決算説明会

証券アナリストやファンドマネージャー向けに決算説明会を年2回開催しています。5月16日開催の決算説明会では、梶本社長から決算報告、事業方針、業界環境、当社グループの状況や業績予想等について説明いたしました。当社株価の適正化を図るためIR活動を推進してまいります。



[2013年6月]
2013年3月期定時株主総会と事業説明会

6月25日第42回定時株主総会を横浜ベイホテル東急で開催いたしました。総会後の事業説明会では、梶本社長より業績概要や今後の重点施策について説明を行い、株主の皆様にご理解を深めていただきました。



[2013年7月]
株主優待の専門誌に掲載

7月1日発行の『見て楽しい 株主優待2013年下期』(日興アイ・アール刊)に株主優待制度や事業内容等を掲載しました。このIR雑誌は、全国の書店やコンビニエンスストアで販売されました。今後も引き続き認知度向上に向けた取り組みを推進してまいります。



4月

5月

6月

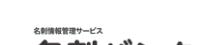
7月

8月

9月

[2013年4月～]
**ビッグデータ時代の新クラウドサービス
 「Dream Cloud®」のサービスを積極的に展開**

企業ニーズの拡大が進む「クラウドサービス」をさらに進化させ、ビッグデータ時代に対応した業種を超えて適用できる新クラウドサービス「Dream Cloud®」の提供を開始し、積極的に展開しています。サービスラインナップの中でも、『わかりやすく便利』『すぐに利用したい』という声の多いサービスを一部ご紹介いたします。

サービス名称	サービス概要
 Dream Office®	コラボレーション&コミュニケーションサービス 米国で35万ユーザが利用、単なるツールを超えた企業のデジタルバックボーン。「人が中心」の完全統合サービスです。
 LiveCams®	クラウド型ネットワークカメラ映像閲覧サービス スマートフォンやタブレットに対応。いつでもどこでもリアルタイムにカメラ映像の確認が可能です。
 Mobile Meets®	HDビデオ会議クラウドサービス スマートフォンやタブレットに対応。ワンランク上のプレゼン品質のHDビデオ会議クラウドサービスです。
 名刺バンク	名刺管理クラウドサービス 名刺データを安心・安全にお預かりし、端末には名刺の個人情報が残らない仕組みのためいつでもどこでもセキュアに利用可能です。

[2013年7月]
Dream Cloud Seminar 2013 in東京ミッドタウン

7月3日、東京ミッドタウンにおいて、『ビッグデータ時代の新たなクラウドサービス「Dream Cloud®」』と題して、当社主催のセミナーを開催いたしました。当社グループの先進的なクラウドサービスの全体像と今後の展望についてユーザー事例を交え具体的に説明いたしました。当日は600名を超える方にご来場いただき、スマートフォンやタブレットを活用したクラウドサービスを実感していただきました。



商号	株式会社アイネット/I-NET CORP.	役員		子会社	
上場金融商品取扱所	東京証券取引所市場第一部(9600)	代表取締役会長	池田 典義	株式会社ISTソフトウェア	株式会社ISTソフトウェア
本社	横浜市西区みなとみらい三丁目3番1号	代表取締役社長	梶本 繁昌	http://www.ist-software.co.jp/	http://www.ist-software.co.jp/
電話番号	(045)682-0800(代表)	専務取締役	田口 勉	資本金	608百万円
URL	http://www.inet.co.jp/	常務取締役	鰐 淵 浩	事業内容	情報処理サービス システム開発サービス システム機器販売
設立	1971年4月22日	常務取締役	大嶋 均	株式会社アイネット・データサービス(特例子会社)	株式会社アイネット・データサービス(特例子会社)
資本金	3,203,992,690円	取締役	野 和彦	http://www.inet-d.co.jp/	http://www.inet-d.co.jp/
従業員数	1,357名(連結)/908名(単独)	取締役	佐伯 友道	資本金	9百万円
事業内容	情報処理サービス システム開発サービス システム機器販売	常勤監査役	本村 晴樹	事業内容	情報処理サービス
		監査役	佐々木 伸一		
		監査役	大橋 秀夫		
		監査役	本合 紘		

特例子会社 「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、企業が障がい者の雇用に特別に配慮し設立した子会社で、一定の条件を満たしているとの厚生労働大臣の認定を受けた会社をいいます。

社会貢献活動

当社グループは、地域での雇用創出や開催イベントへの協賛、文化芸術振興への支援や災害支援を中心に積極的に社会貢献活動を行っております。

障がいのある方の自律を支援

当社グループは、障がいのある方が能力と適性に合った職業に就労し、自律した生活を送ることができる社会の実現に向けた支援も社会貢献活動のひとつと考えております。その取り組みとして、障がい者雇用の促進を目的に株式会社アイネット・データサービスを設立し、障がいのある方が「自立・成長・自律」できるよう支援を続けております。



文化芸術振興への支援

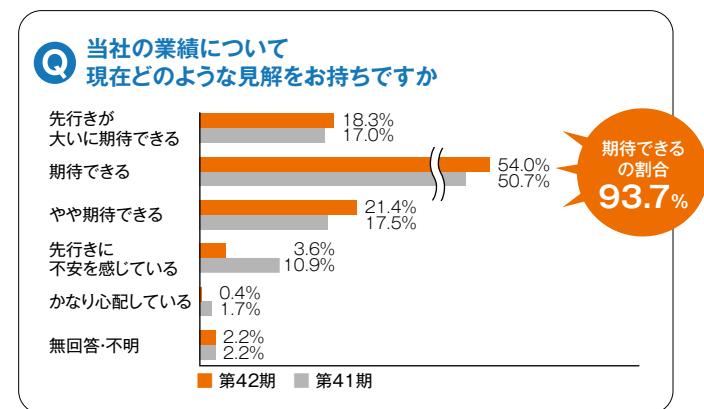
当社グループは、心豊かな活力ある地域社会の形成・発展に芸術文化の果たす役割が大きいと考えております。その取り組みの一環としてブルーダル基金を通じ神奈川フィルハーモニー管弦楽団の活動を支援しております。



アンケート結果のご報告

「株主様アンケートにご協力ありがとうございました」

第42期株主通信において、224名の方からご回答をいただきました。その一部をご紹介します。



「先行きが大いに期待できる」から「やや期待できる」までにご回答いただいた割合は93.7%となりました。2期連続増収増益を達成し、営業利益で過去最高益を更新したことに加えて、トップインタビューを通じて成長への取り組みをご理解いただけた結果と考えております。

株主様からの貴重なご意見・ご要望は今後の経営並びにIR活動に生かしてまいります。

株式の状況 (2013年9月30日現在)

- 株主数 4,229名
- 発行可能株式総数 60,000,000株
- 発行済株式の総数 14,765,840株
- 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
池田 典 義	2,018,990	13.68
アイネット従業員持株会	1,344,015	9.11
株式会社北川恒産	700,000	4.74
株式会社横浜銀行 (常任代理人資産管理サービス信託銀行株式会社)	643,000	4.36
有限会社エヌ・アンド・アイ	287,980	1.95
日本生命保険相互会社	250,000	1.69
三菱総研DCS株式会社	217,800	1.48
トッパン・フォームズ株式会社	211,000	1.43
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	191,200	1.30
黒川 宏 子	150,110	1.02

※持株比率について…自己株式を9,905株保有しておりますが、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別構成比



株式メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会・期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
- 同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-7111 (通話料無料)
- 上場証券取引所 東京証券取引所
- 公告の方法 電子公告により行います。
公告掲載URL
<http://www.inet.co.jp/denshi-koukoku/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた際には、日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

配当金

当社は将来の資金需要に備え内部留保を充実しつつ、安定的な配当を継続して実施することを基本としています。

第43期
1株当たり
配当金 **25円** (計画)
(中間12.5円+期末12.5円)

株主優待制度のご案内

株主の皆様の日頃のご支援にお応えするとともに、当社株式の魅力を高めることを目的に実施しています。

対象株主様 毎年9月末日時点で1,000株以上保有いただいている株主様

優待内容 所有株式に応じて当社オリジナルQUOカードを年1回(12月上旬)お届けいたします。

社会への貢献 贈呈額の10%を別途、当社より障がい者支援団体等に寄付させていただきます。

オリジナル
QUOカード



贈呈の内容

1,000株以上 3,000株未満	1,000円
3,000株以上 5,000株未満	2,000円
5,000株以上	3,000円

更に3年以上継続保有の場合は、1,000円分のQUOカードを追加